ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、ユニバーサルデザイン
に関するアンケート実施報告書

「ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、ユニバーサルデザインに関するアンケート」の実施結果を次のとおりご報告いたします。アンケートにご協力いただきましたｅ-モニターの皆様に厚くお礼を申し上げます。

アンケートの概要

１　アンケート実施期間

令和４年２月16日（水）～令和４年３月２日（水）

２　アンケート回収状況

対象者数　　1,179名
回答者数　　748名
回答率　　63.4%

３　回答者属性

＜年代別＞

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
回答者数	２人	38人	108人	194人	194人	158人	54人
総数に占める割合	0.3%	5.1%	14.4%	25.9%	25.9%	21.1%	7.2%

＜地域別＞

地域	北勢地域	中勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
回答者数	365人	214人	90人	61人	18人
総数に占める割合	48.8%	28.6%	12.0%	8.2%	2.4%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
中勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町
伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町
伊賀：名張市、伊賀市
東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

アンケートの結果

【Ｑ１】「ダイバーシティ」について

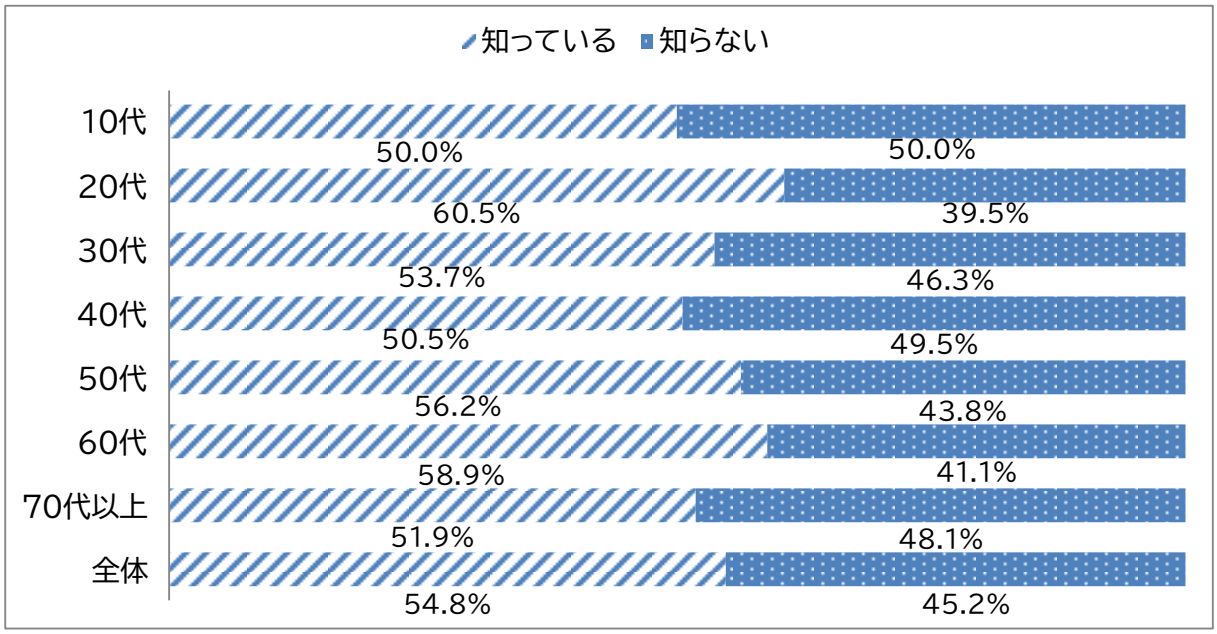
あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。「知らない」とお答えいただいた方は、Ｑ３へお進みください。

「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が54.8%（410人）となっています。

① 知っている	410人	54.8%
② 知らない	338人	45.2%

（回答者数： 748人）

すべての年代で、「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が半数以上となっています。



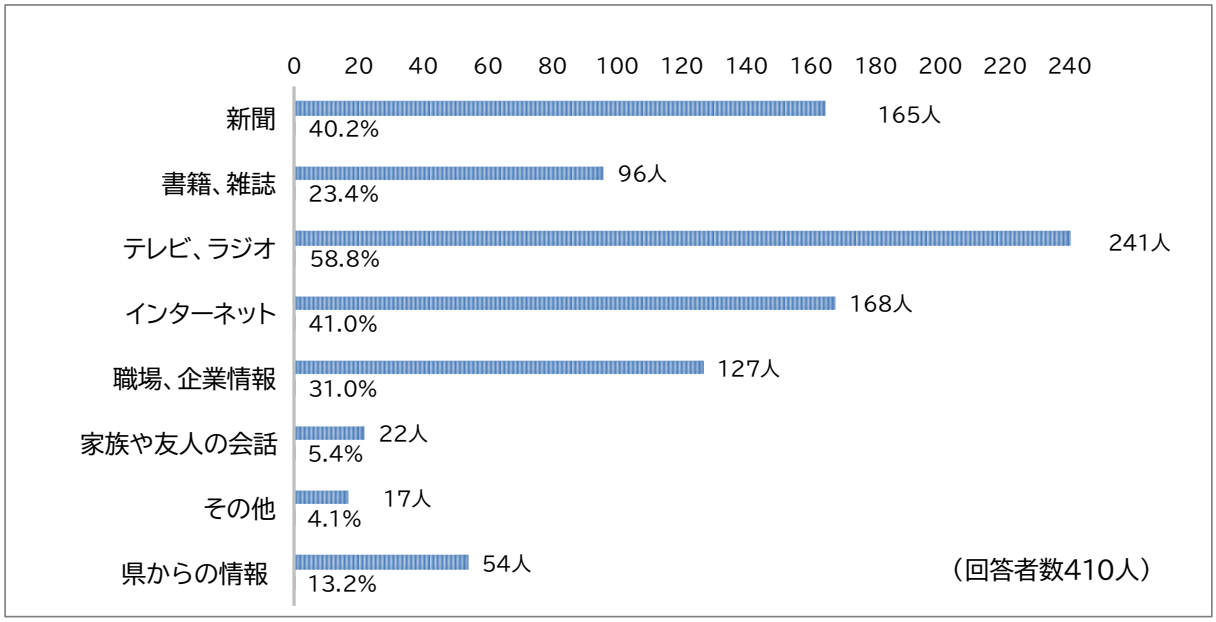
ダイバーシティという言葉についての認知度は 50%を超えていますが、前年度からはわずかに減少しました。

項　目	R3	R2	R1	R3-R1
①知っている	54.8%	55.0%	55.4%	▲0.6
②知らない	45.2%	45.0%	44.6%	0.6

【Ｑ２】「ダイバーシティ」について

Ｑ１で、「知っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、「ダイバーシティ」という言葉をどこで（何で）知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

Ｑ１で「知っている」と回答した方（410 人）のうち、「ダイバーシティ」を知った媒体としては、「テレビ、ラジオ」と回答した方が 58.8%（241 人）と最も多く、次いで、「インターネット」が 41.0%（168 人）、「新聞」が 40.2%（165 人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、「学校」「英語で知っていた」などの回答がありました。



年代別の回答では、20 代は「インターネット」、30 代以上では「テレビ、ラジオ」と回答した割合が高くなっています。

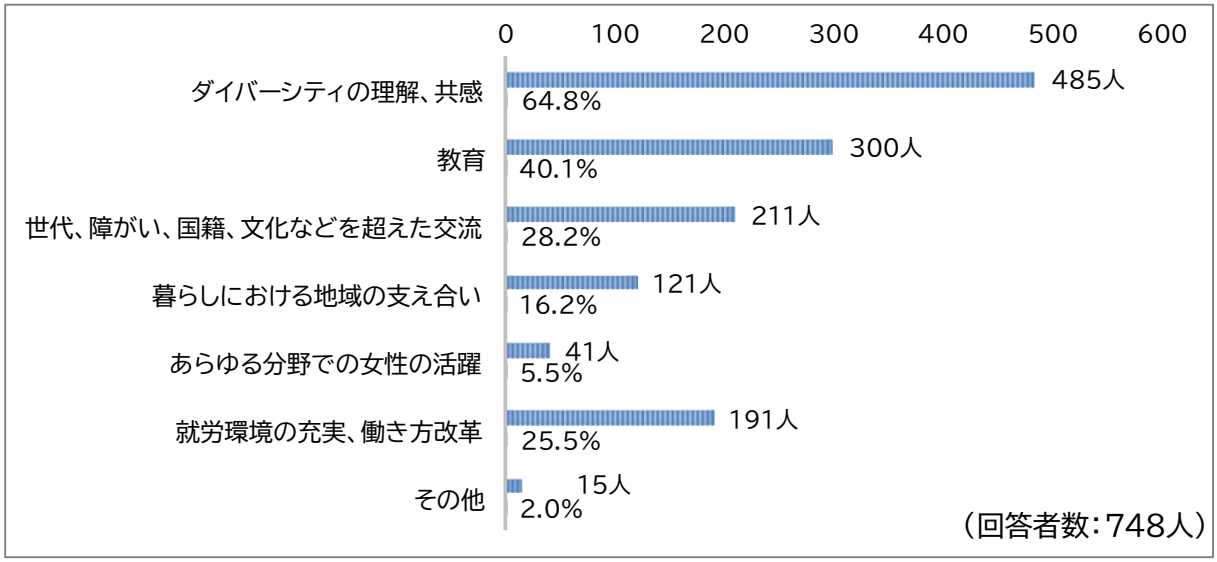
項　　目	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
新聞	0.0%	8.3%	12.3%	18.0%	17.6%	22.6%	25.3%
書籍、雑誌	0.0%	12.5%	2.8%	13.2%	12.4%	10.6%	10.3%
テレビ、ラジオ	0.0%	22.9%	34.9%	25.4%	26.6%	27.0%	25.3%
インターネット	0.0%	22.9%	25.5%	20.6%	18.0%	15.0%	17.2%
職場、企業情報	0.0%	14.6%	14.2%	14.3%	16.3%	14.2%	9.2%
家族や友人の会話	0.0%	6.3%	1.9%	2.1%	2.6%	2.7%	1.1%
その他	100.0%	10.4%	2.8%	0.5%	1.3%	0.9%	2.3%
県からの情報	0.0%	2.1%	5.7%	5.8%	5.2%	7.1%	9.2%

【Ｑ３】ダイバーシティ社会の実現について

性別や年齢、障がいの有無、国籍等に関わらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現のために、さまざまな取組が必要であると考えます。これらの取組を県民の皆さんとともに進めるうえで、あなたは、県の取組として何を優先すべきであると思いますか。主なものを２つまで選んでください。

「ダイバーシティの理解、共感」と回答した方が 64.8%（485 人）と最も高く、次いで、「教育」が 40.1%（300 人）、「世代、障がい、国籍、文化などを超えた交流」が 28.2%（211 人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、以下のようなご回答をいただきましたので、その一部をご紹介します。

・「ダイバーシティ」という言葉をわかりやすく説明し、広めていく
・企業における仕組みづくり
・広報・啓発



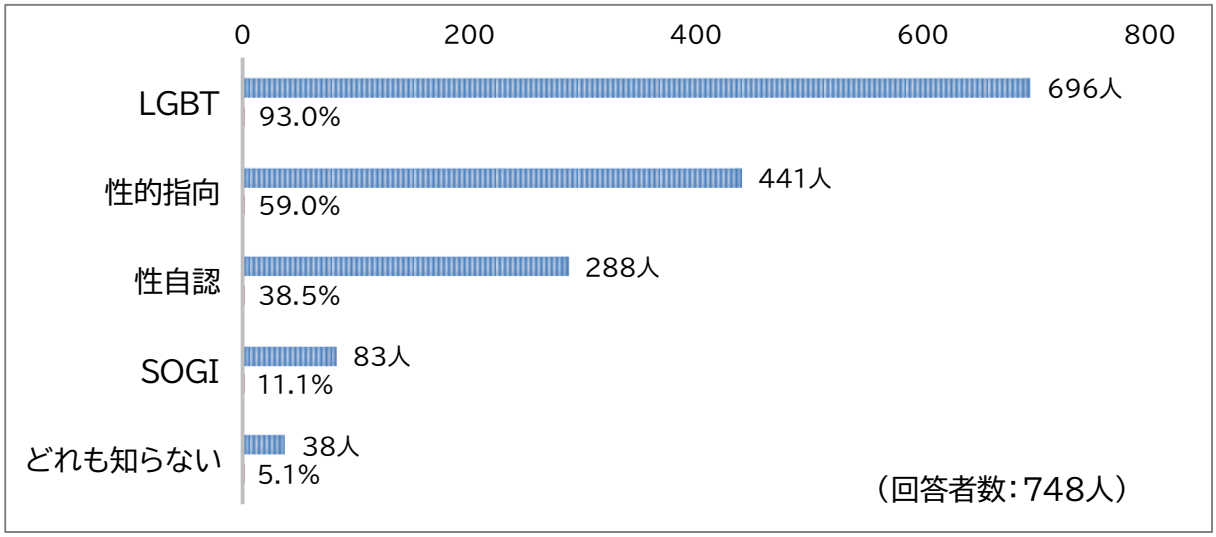
また、年代別の回答でも、全ての年代で「ダイバーシティの理解、共感」「教育」と回答した方の割合が高い傾向でした。

項　　目	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
ダイバーシティの理解、共感	50.0%	31.0%	34.3%	36.5%	36.9%	35.2%	34.0%
教育	25.0%	26.8%	22.2%	22.4%	21.3%	22.5%	17.9%
世代、障がい、国籍、文化などを超えた交流	0.0%	11.3%	14.6%	17.4%	14.8%	15.7%	16.0%
暮らしにおける地域の支え合い	25.0%	7.0%	7.1%	7.1%	9.9%	9.6%	13.2%
あらゆる分野での女性の活躍	0.0%	2.8%	2.5%	3.8%	2.0%	3.4%	3.8%
就労環境の充実、働き方改革	0.0%	18.3%	18.7%	12.6%	13.1%	12.3%	15.1%
その他	0.0%	2.8%	0.5%	0.3%	2.0%	1.4%	0.0%

【Ｑ４】性のあり方の多様性について

次の言葉のうち、言葉も内容も知っているものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

「ＬＧＢＴ」という言葉を「知っている」と回答した人は 93.0%（696 人）、「性的指向」という言葉を「知っている」と回答した人は 59.0%（441 人）と、認知が広がっている一方、「性自認」「ＳＯＧＩ」という言葉は、「ＬＧＢＴ」「性的指向」に比べると、認知度が低い結果となりました。



年代別の回答でも、全ての年代で「ＬＧＢＴ」という言葉が知られていることがわかります。

項　　目	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
ＬＧＢＴ	66.7%	42.2%	43.1%	46.2%	45.1%	44.5%	48.1%
性的指向	0.0%	25.6%	28.9%	28.2%	29.5%	28.2%	29.8%
性自認	33.3%	24.4%	20.9%	18.5%	17.1%	18.2%	15.4%
ＳＯＧＩ	0.0%	7.8%	5.4%	5.1%	5.8%	4.7%	4.8%
どれも知らない	0.0%	0.0%	1.7%	2.0%	2.5%	4.4%	1.9%

【Ｑ５】性のあり方の多様性について

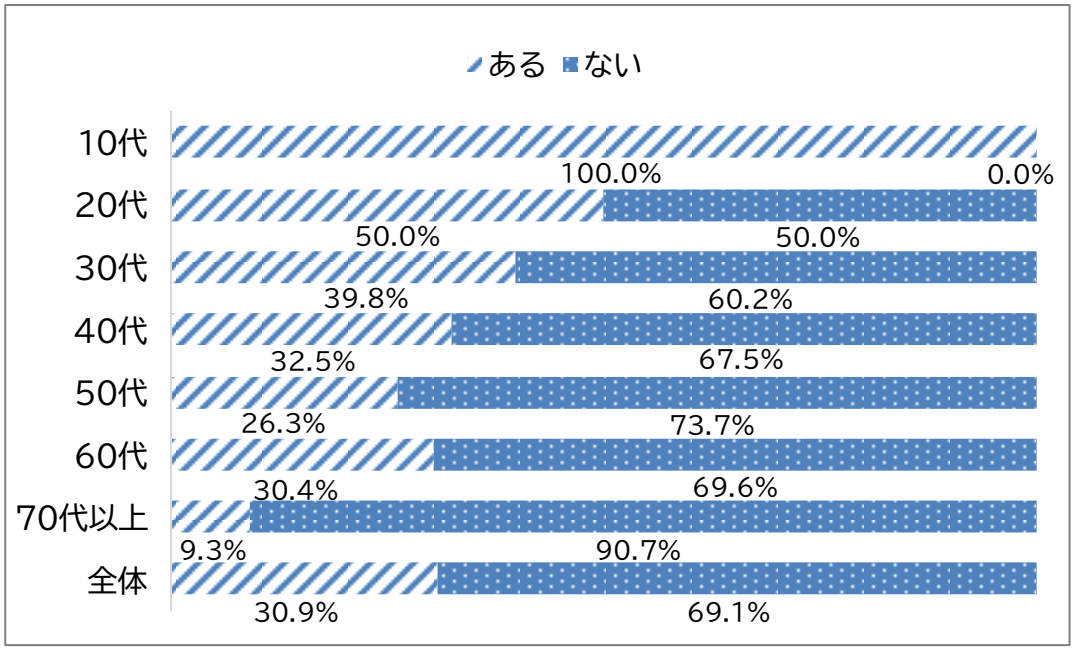
あなたは、多様な性的指向・性自認やＬＧＢＴなどについて、これまで学んだことはありますか。

「学んだことがある」と回答した方が 28.1%（231 人）となっています。

① 学んだことがある	231 人	30.9%
② 学んだことはない	517 人	69.1%

（回答者数：748 人）

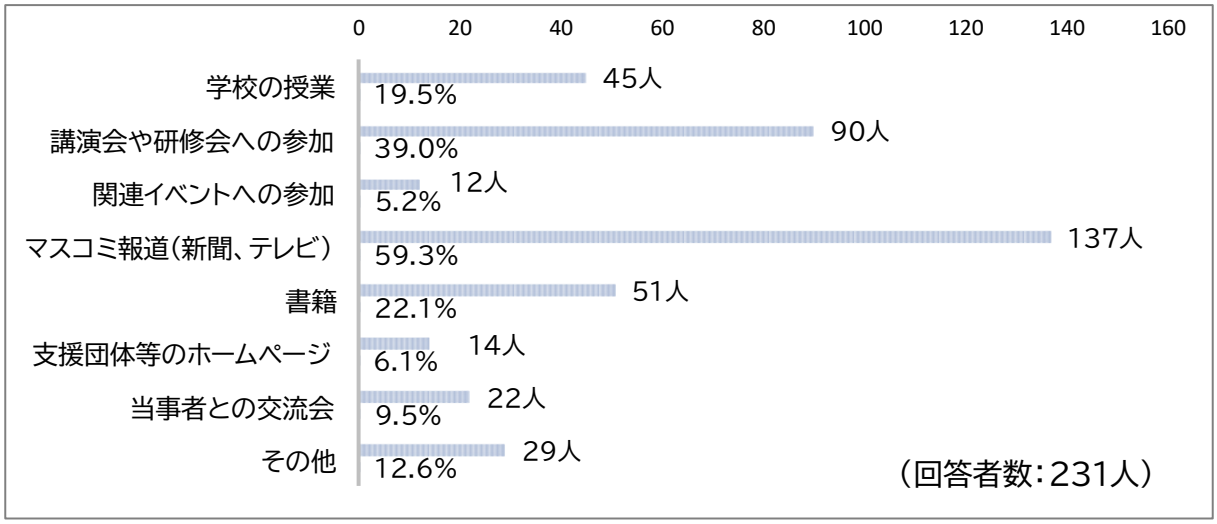
回答した方の割合を年代別に見ると、年代が上がるにつれて「学んだことがある」と回答した方の割合が低くなる傾向が窺えます。



【Ｑ６】性のあり方の多様性について

Ｑ５で「ある」を選んだ方にお聞きします。あなたは、これまでにどのような場で学んだことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

Ｑ５で「学んだことがある」と回答した方（231 人）のうち、「マスコミ報道（新聞、テレビ）」と回答した方が 59.3%（137 人）と最も多く、次いで、「講演会や研修会への参加」が 39.0%（90 人）、「書籍」が 22.1%（51 人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、「職場の研修」「インターネット」などの回答がありました。



年代別の回答では、10 代から 20 代では「学校の授業」の回答した割合が高くなっています。また、30 代以上では「マスコミ報道（新聞、テレビ）」「講演会や研修会への参加」の割合が高くなっています。

項　　目	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
学校の授業	100%	34.3%	17.1%	8.3%	7.4%	3.2%	10.0%
講演会や研修会への参加	0%	14.3%	18.6%	19.4%	25.9%	29.8%	20.0%
関連イベントへの参加	0%	2.9%	0.0%	2.8%	3.7%	4.3%	10.0%
マスコミ報道(新聞、テレビ)	0%	31.4%	32.9%	33.3%	32.1%	40.4%	30.0%
書籍	0%	2.9%	11.4%	17.6%	13.6%	11.7%	10.0%
支援団体等のホームページ	0%	5.7%	4.3%	3.7%	2.5%	2.1%	10.0%
当事者との交流会	0%	8.6%	8.6%	4.6%	4.9%	4.3%	0.0%
その他	0%	0.0%	7.1%	10.2%	9.9%	4.3%	10.0%

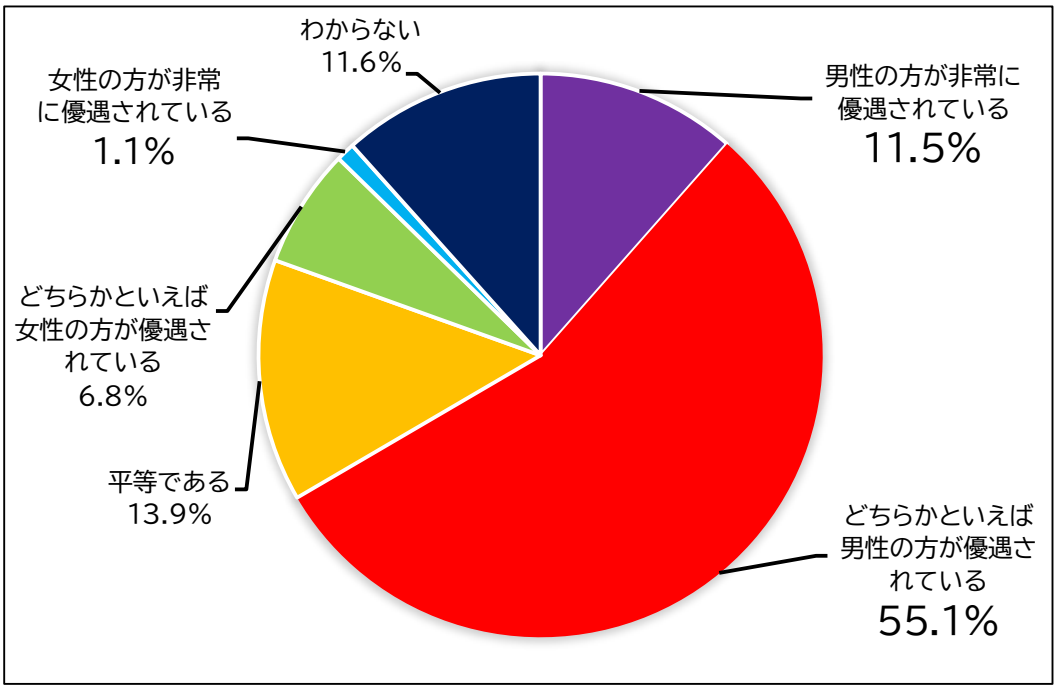
【Ｑ７】性別について

男女の性別によるアンケート結果の分析のため、あなたの性別（自認する性）をお答えください。なお、選択肢がない場合は回答不要です。

男性…50.1%　　女性…49.9%

【Ｑ８】男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。



「平等である」の割合は13.9%であり、昨年の12.5%より1.4ポイント増加、一昨年の13.3%より0.6ポイント増加しました。

性別による優遇感については、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は66.6%で、昨年の68.3%より1.7ポイント、一昨年の67.3%より0.7ポイント減少しており、平等感が増加するとともに、男性の優遇感が減少していることが窺えます。

項　　目	R3		R2		R1		R3−R1
男性の方が非常に優遇されている	11.5%	66.6%	13.0%	68.3%	11.5%	67.3%	▲0.7
どちらかといえば男性の方が優遇されている	55.1%		55.3%		55.8%		
平等である	13.9%		12.5%		13.3%		0.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.8%	7.9%	6.6%	8.0%	7.9%	10.0%	▲2.1
女性の方が非常に優遇されている	1.1%		1.4%		2.1%		
わからない	11.6%		11.2%		9.2%		2.4

男女別に比較すると、「平等である」の割合は、男性が 17.2%に対して女性が 10.8%と約 6 ポイントの差があり、女性に比べて男性の方が平等感が高い傾向にあります。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、男性が 58.6%に対して女性が 74.4%と約 16 ポイントの差があり、昨年度よりその差は大きくなっています。

＜男女別＞

項　　目	男性				女性			
	R3	R2	R1	R3-R1	R3	R2	R1	R3-R1
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	58.6%	64.0%	60.3%	▲1.7	74.4%	72.2%	75.0%	▲0.6
平等である	17.2%	17.5%	16.2%	1.0	10.8%	7.4%	10.1%	0.7
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	12.1%	9.1%	14.0%	▲1.9	3.8%	7.0%	5.9%	▲2.1
わからない	12.1%	9.5%	8.7%	3.4	11.1%	9.0%	13.6%	▲2.5

年代別に比較すると、「平等である」の割合は、年代により差異はあるものの、はっきりとした傾向は見られません。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られます。

＜年代別＞

項　　目	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	100%	47.4%	63.0%	63.4%	69.6%	70.3%	75.9%
平等である	0.0%	18.4%	8.3%	13.9%	12.4%	18.4%	14.8%
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	0.0%	10.5%	11.2%	6.7%	8.7%	6.4%	5.6%
わからない	0.0%	23.7%	17.6%	16.0%	9.3%	5.1%	3.7%

【Ｑ９】男女平等について（理由）

Ｑ８で「平等である」以外を選んだ方にお聞きします。なぜあなたはそのように思いますか。

「平等である」以外を選択された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、次のようなご意見がありました。（一部のみ）

（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

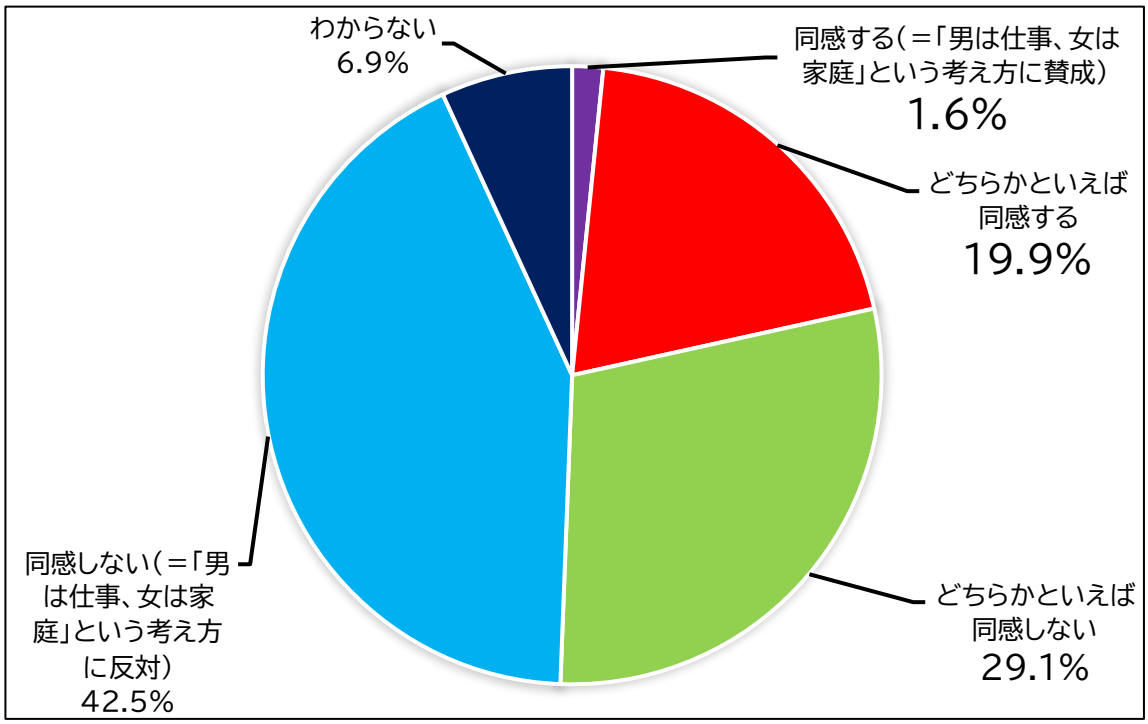
・企業に於ける昇格、昇進や給与等に男女間格差が存在する。
・育児、家事の負担は女性にかかる。
・家事は、女の人がするのが当たり前みたいなところがまだまだある。
・賃金差別、家庭内の家事分担、女性管理職の少なさ。
・昔からの男尊女卑の風習がまだ残っているように思う。
・出世や職務内容が男性だからというだけで優遇される。
・社内において役員、管理職は男性が圧倒的に多い。
・就職機会や昇進等において、依然として男性優位な傾向が残っているから。

（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

・女性には実力に関係なく一定数の割合で役職が用意されている場合があるから。
・制度として女性優遇のものが多い。
・身体的の性別が女性の方が、優遇されていると思われる面が多い。男性だからと逆に求められる事も多い。
・産休、育休などが取得しやすい。

【Q10】「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方について、あなたはどう思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。



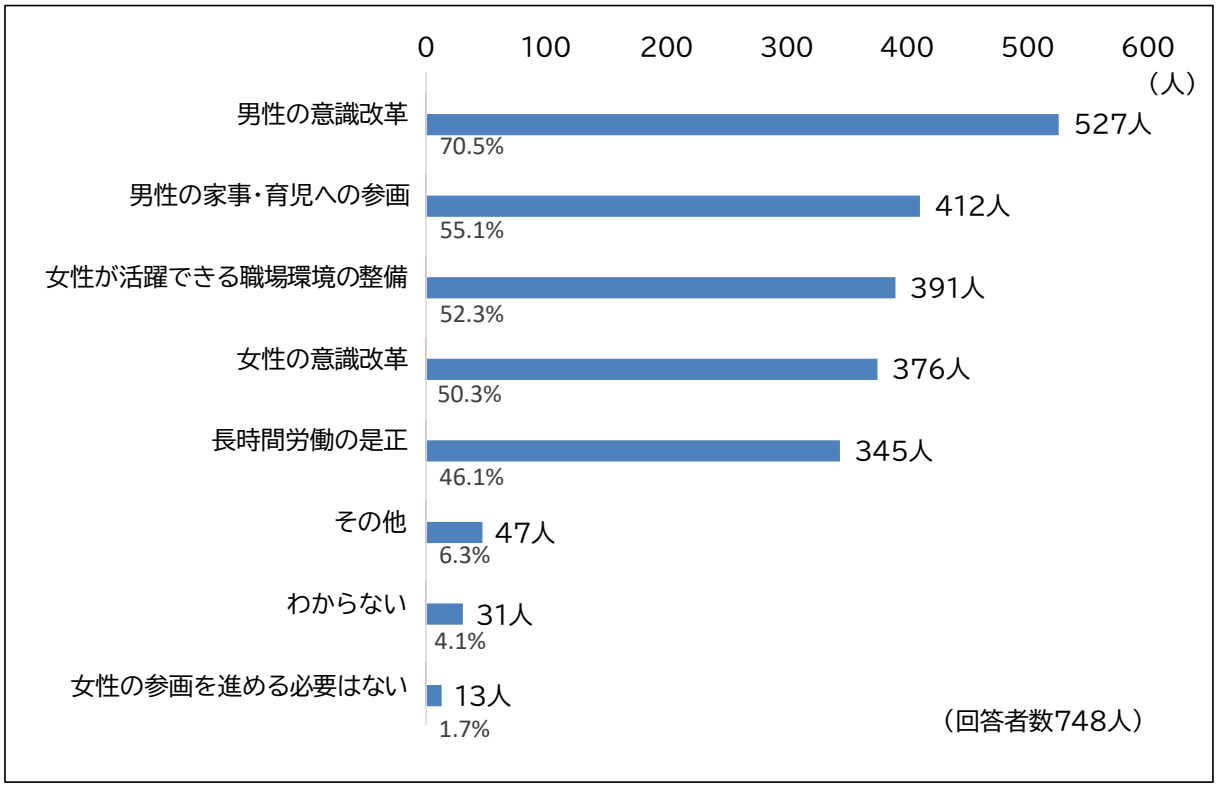
「同感しない（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」「どちらかといえば同感しない」を合わせた割合は 71.6%で、昨年の 71.5%より 0.1 ポイント増加、一昨年の 70.7%より 0.9 ポイント増加しました。

一方で、「同感する（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成)」「どちらかといえば同感する」を合わせた割合は 21.5%で、昨年の 19.7%より 1.8 ポイント増加していますが、一昨年の 23.7%よりは減少しています。

項　目	R3	R2	R1	R3-R1
同感する（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成） どちらかといえば同感する	21.5%	19.7%	23.7%	▲2.2
どちらかといえば同感しない 同感しない（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対）	71.6%	71.5%	70.7%	0.9

【Q11】男女共同参画の推進について

あなたは、今後、男女共同参画を推進していくために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

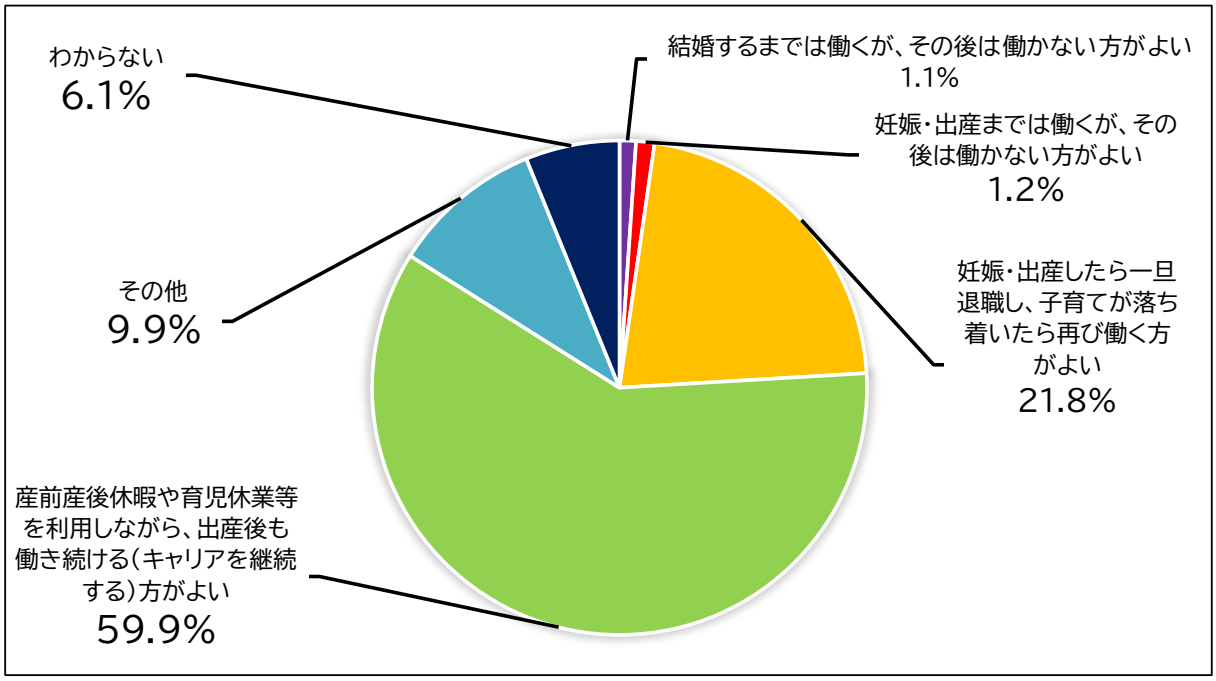


今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革（527人）」「男性の家事・育児への参画（412 人）」「女性が活躍できる職場環境の整備（391 人）」が上位を占め、昨年同様、男性側の対応を求める声が多く聞かれました。

また、「その他」を選択された方からは、「高年齢層の意識改革」「育児環境と税制の変更」「社会全体の理解」「男女差別はあってはならないが、性別より個人が活躍できる様に意識改革が必要」「女性の給与水準の上昇」などのご意見をいただきました。

【Q12】女性の働き方について（考え方）

あなたは、女性が結婚・出産した場合の働き方についてどのようにお考えですか。あてはまるものを１つ選んでください。



昨年同様、「産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい」という「継続型」の回答割合が最も高く、59.9%を占めました。

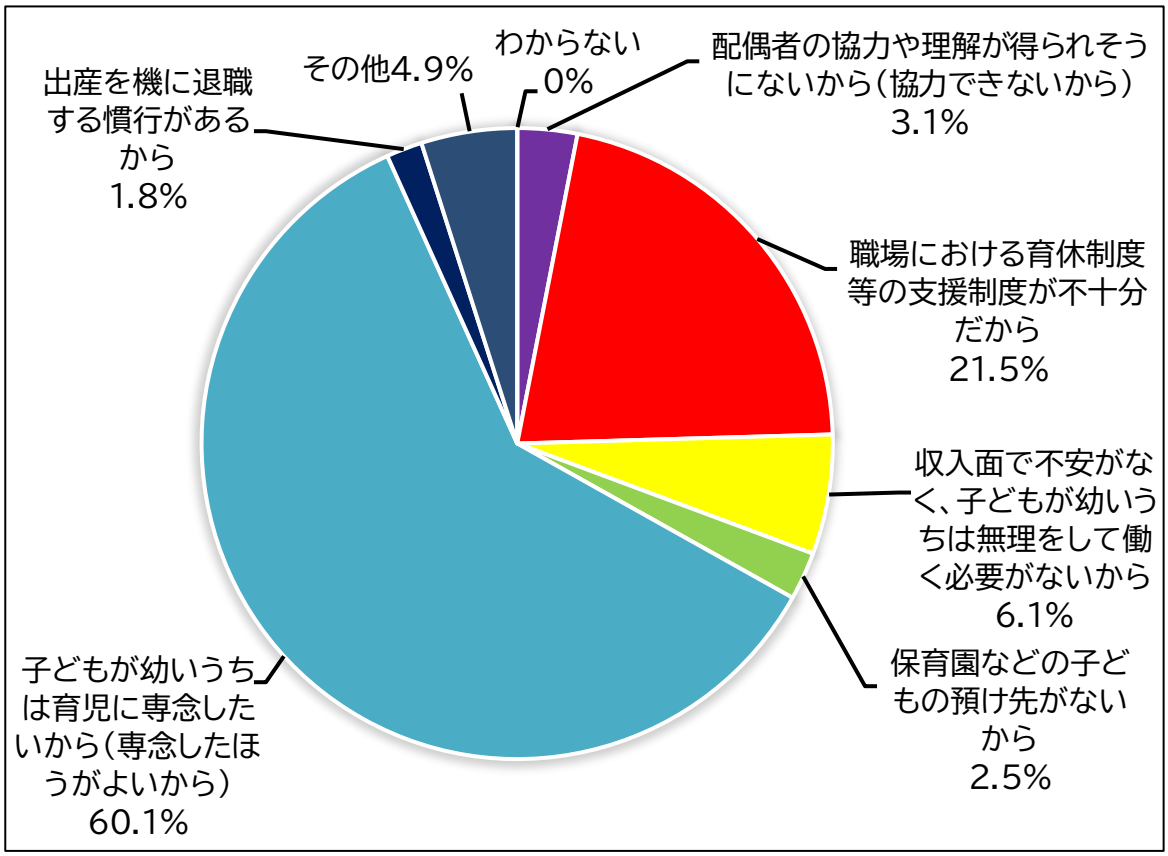
一方、「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」という「中断型」の回答割合は21.8%と、昨年の21.5%から0.3ポイント増加、一昨年の22.4%から0.6ポイント減少しました。

また、「その他」を選択された方からは、「１人ひとりのベストな働き方を自由に選択できる社会になれば良い」といったご意見をいただきました。

項　目	R3	R2	R1	R3-R1
結婚するまでは働くが、その後は働かない方がよい	1.1%	1.1%	0.8%	0.3
妊娠・出産までは働くが、その後は働かない方がよい	1.2%	1.6%	1.8%	▲0.6
妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい	21.8%	21.5%	22.4%	▲0.6
産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい	59.9%	60.1%	59.3%	0.6
その他	9.9%	11.6%	11.7%	▲1.8
わからない	6.1%	4.1%	4.0%	2.1

【Q13】女性の働き方について（理由）

Q12 で「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、なぜそのように考えますか。もっともあてはまるものを１つ選んでください。

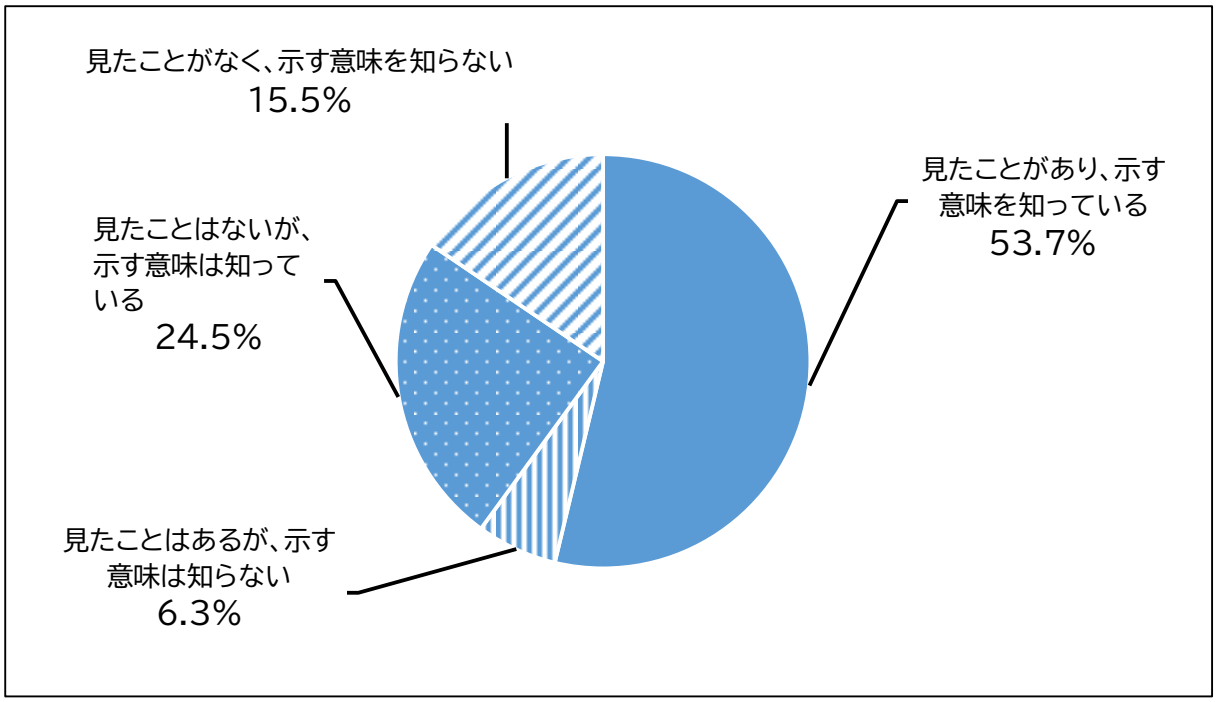


昨年に続き、「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念した方がよいから）」の割合が 60.1%と最も高く、「職場における育休制度等の支援制度が不十分だから」の割合が 21.5%と次に高くなっています。

項　目	R3	R2	R1	R3-R1
配偶者の協力や理解が得られそうにないから（協力できないから）	3.1%	1.7%	2.9%	0.2
職場における育休制度等の支援制度が不十分だから	21.5%	18.2%	22.1%	▲0.6
収入面で不安がなく、子どもが幼いうちは無理をして働く必要がないから	6.1%	9.9%	11.8%	▲5.7
保育園などの子どもの預け先がないから	2.5%	2.5%	2.2%	0.3
子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念したほうがよいから）	60.1%	63.6%	53.7%	6.4
結婚や出産を機に退職する慣行があるから	1.8%	0.0%	0.0%	1.8
その他	4.9%	4.1%	7.4%	▲2.5
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0

【Q14】「ヘルプマーク」の認知度について

「ヘルプマーク」は義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。あなたは、「ヘルプマーク」を見たことがあり、その意味をご存じですか。

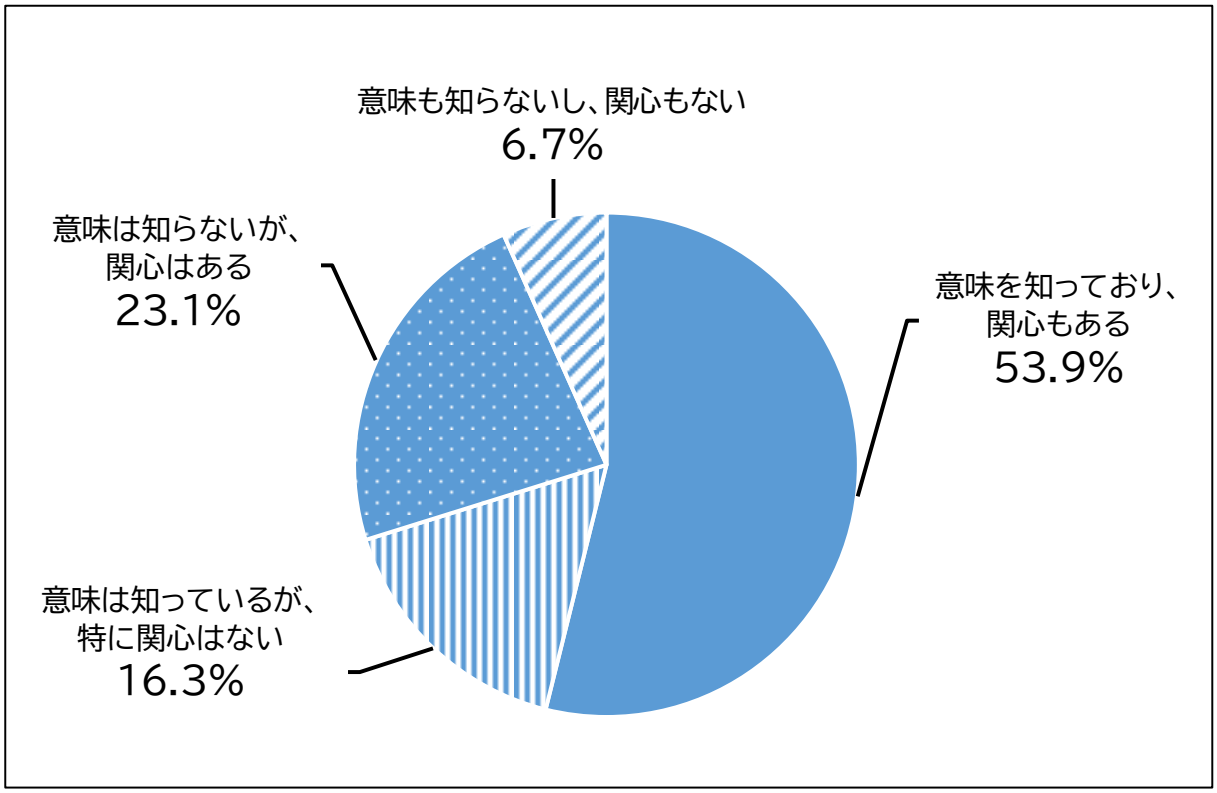


「ヘルプマーク」について、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはあるが、示す意味は知らない」を合わせて60.0%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはないが、示す意味は知っている」を合わせて78.2%の方が示す意味は知っていると回答しています。

【Q15】「ユニバーサルデザイン」の意味及び関心について

「ユニバーサルデザイン」とは、障がいの有無や年齢、性別等に関わらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるように施設、製品、制度等をデザインすることを言います。あなたは、「ユニバーサルデザイン」の意味を知っていましたか。また、関心はありますか。



ユニバーサルデザインの意味について 70.2%の方が知っていると回答しています。ユニバーサルデザインに関心のある方は、77.0%となっています。